

研究授業テーマ：STEAM 教育を意識した音楽科授業の在り方とは

(1)学習のめあて われは戸田の子！地元を盛り上げるイメージソングをつくろう

(2)学習活動の概要

自分の住んでいる町でお店を開くとしたら、どんなイメージソングにしたらよいか…集客に結びつくような歌詞を国語の詩の学習を生かして考えたり、AI 作曲アプリ「CREEVO」を使って詩の内容に合った曲想を考えたりしながら、STEAM を意識した「実社会で役立つ音楽づくり」を体験する。

(3)音楽科題材名 旋律の特徴を生かして表現しよう

(4)題材の目標

- ・旋律、リズム、フレーズや歌詞の内容と曲想との関わりを理解して、呼吸や発音の仕方に気を付けて響きのある声で歌う技能や、音色や響きに気を付けて互いの音を聴いて演奏する技能を身に付ける。
- ・旋律、リズム、フレーズや歌詞の内容などと曲想との関わりを生かして表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。
- ・旋律の特徴やフレーズを生かし、互いの声や音を聴き合って表現したり、つくった音楽を発表し合って気付いたことを伝え合ったりする学習に主体的に取り組む。

(5)授業の大まかな流れ

- ①国語の授業で「詩」をつくる学習を経験…「作詞」に対するイメージをもつ
- ②音楽の授業で「われは海の子」（文部省唱歌）を歌唱。海辺に住む子ども達の地元への深い思いを語った詩を味わいながら歌う。
- ③AI 作曲アプリ「CREEVO」を使い、「われは海の子」を現代風にアレンジするとどんな曲になるかを試してみる。
- ④地元・戸田でお店や会社を始めるとしたら、どんなイメージソングにしたらマーケティング効果が高まるかを考え、作詞や作曲をする。（個人活動…CREEVO は「マニュアル」で作曲する）
- ⑤各々が作詞・作曲したイメージソングを聴き合い、感想を述べ合う。（グループ活動）
- ⑥グループのメンバーのお店が集まって、商店街やショッピングモールを街につくるとしたら、どんなイメージソングにしたらよいか、集まるお店の特徴や街の将来像などをイメージしながらグループで相談して曲をつくる。

(6)本題材における STEAM 教育のねらい

<児童がめざすもの>

- ・詩や音楽をつくることが実社会でどのように役立つのかを体感する。
- ・AI を使いこなし、生活に役立てるにはどのような手段があるのかを知る。
- ・実社会に貢献するために、知識やテクノロジーをどのように活用したらよいか考える。

<教師がめざすもの>

- ・多様な発表の場、表現方法を考える
→社会に貢献するために、「音楽」という表現方法では何ができるのかを提起する
- ・学びの過程を記録する（振り返りや伝え合い）
→各々がつくった作品を共聴できる環境を整え、互いの考えを伝え合えるようにする。
- ・実社会・他者とのつながりをもたせる
→普段から日常生活や実社会とのつながりを意識できる教科経営を行う。
→作詞・作曲家、あるいは、実際に戸田でお店などの経営をしている人の思いや願いを知る機会をつくる。
- ・ファシリテーション力を高める（試行錯誤させる）
→イメージに合った楽曲を仕上げるための様々な方策や条件を提示し、児童の学習活動に寄り添う。